

彼方【かなた】

【卒業式 式辞】

校長通信
H30.3.13
Vol.28

厳しい冬の寒さを乗り越え、全身で春の暖かさを感じられる季節になりました。二六二名の三年生の皆さん、卒業おめでとうございます。

保護者の皆様、義務教育九年間、決して楽

ではなかったと思いますが、無事に本日を迎えましたこと、心からお喜び申し上げます。

また、このよき日に 我孫子市教育委員会教育長 倉部俊治 様をはじめ、多くのご来賓の皆様にご臨席を賜り、「第三十九回卒業証書授与式」を挙行できますことに大きな喜びを感じております。本校教職員を代表し、心より感謝申し上げます。

さて、卒業生の皆さん、今年一年間、始業式や終業式、朝礼、全校集会、校長通信「彼方」等を通していろいろなメッセージを発信してきました。この式辞が、私からの最後のメッセージです。最後に皆さんに伝えるテーマは、「変える勇氣」と「笑顔の大切さ」です。

校長面接の時に、「あなたは中学校で何を頑張りましたか？」と聴く機会がありました。

「修学旅行で時間を意識してみんなで行動したこと」



「部活動で全国大会優勝をみんな目指したこと」
「勉強で分らないところをみんなに聴いたこと」
「今まで登校できなかったのですが、少しずつ登校し、教室でみんなと過ごせるようになったこと」
「生活面を見直して、みんなと一緒に勉強できるようになったこと」

「体育祭の応援をみんなで工夫したこと」
「合唱コンクールに向けて必死に練習したこと」

たくさんの頑張りを聴かせてもらいました。それぞれ自分を振り返り、頑張れたことを素直に話してくれたので、聴いていて、とてもうれしくなったのを覚えていきます。

逆に「無理だし」「できるわけない」「かったるい」「どうせ変わらない」等々の言葉を聴くこともたびたびありました。「楽しくないけど楽だから」と選んだ道は、本当に自分が行きたい道、本当にやりたいことではないかもしれません。

「変える」には勇氣が必要です。これは言葉で言うほど簡単なことではありません。人差し指を周りに向けて、自分が動けない理由をその指先に置けば、今の自分が守られ、安心できます。「変える」というのは、自分にとって守られず、安心できないところに身を置くことです。それには強い覚悟や決心が必要です。人がなかなか変わらないのは、その勇氣がつかれないからです。でも、人差し指を人に向けたとき、残りの指はどちらを向いていますか？三本の指は自分の方に向いています。これは、「他に原因を探して指先をそこに向けるより、自分を変える方が簡単に変えられるよ」という暗示です。「変える」た

めの判断基準を「笑顔」に置いておくと、自分の行動を変えやすくなります。上手いかわなくても楽しく挑戦できるようになります。

三年生になってみなさんは大きく変わりました。とても大人になりました。周りのことを考えて「笑顔」を作り出すために、支え合うことができるようになりました。待つことではなく、自ら動くことを選択するようにもなりました。みなさんの将来は、答えのない時代です。自分で納得できる答えを周囲と協働しながら創造する時代です。そんな時、白山中での「学び」を生かしてください。

親指と小指を立てて、人差し指と中指、薬指をたんでみてください。親指がいつも小指の方を向いているのに気がつきません。私たち白山中の教職員は、いつでも親指でいたいと思っています。それぞれの進路先での活躍を願っています。

結びになりますが、本日、ご多忙にもかかわらず、ご臨席を賜りましたご来賓の皆様、これからも温かく卒業生並びに白山中学校へのご支援を賜りますよう、心よりお願い申し上げます。

保護者の皆様、微力ながら我々も力を合わせて一生懸命教育してまいりました。でも思うようにいかないことも多々あり、ご迷惑をおかけしました。それでもいつも温かく支えていただいたことに、心より感謝申し上げます。

以上、二六二名の卒業生の輝かしい門出を祝し、式辞といたします。

平成三十年三月十三日

我孫子市立白山中学校 校長 田中 聡